

スマイル Pick Up!

チームの勝利に向かって



大西 縁さん(11歳)=立川町1=

「野球が好きです」と笑顔を見せる大西さん。

市内の学童野球チーム「勝山市成器スポーツ少年団」に所属し、現在は、ピッチャーとシヨートを守るチームの中心的存在の1人として活躍しています。

野球を始めたきっかけをたずねると「野球をするお兄ちゃんの姿に憧れて始めました」と兄の姿を追いかけて、小学校1年生の冬から練習に参加するようになったそうです。

練習は辛い時もあるそうですが「いいピッチングや守備ができたときに嬉しい」と、試合で良いプ

レーをするために週3回の練習をずっと続けてきました。
今年、小学生としては最後の年。「目標はチームで一番のピッチャーになることです」とボールの回転を意識してストレートの技術に磨きをかけています。「守備も上手く、良いボールを投げる」と監督の信頼もあつく、勝利に向かってチームの仲間と一生懸命練習に励んでいました。

大西さんは、野球の競技人口が減る中、「女の子でも野球に興味があつたらぜひ参加してほしいです」と、多くの人に野球の楽しさが広がることを願っていました。



市民が親しみをもてる体育館になってほしい



石畝 正樹さん(58歳)=元町1=

福井県内の優れた建築作品に贈られる「ふくい建築賞」。3月に開催された第7回ふくい建築賞公開審査会において、勝山市体育館ジオアリーナ(以下ジオアリーナ)が優秀賞を受賞しました。その設計を担ったひとり、石畝さんです。

今回の受賞については、インパクトがある外観デザインの美しさ、走りやすい楕円形のランニングコースなどが高く評価されたとのこと。受賞したことで、「すべての人が助け合い、共に生きていく社会のなかで、あらゆる世代の人達がジオアリーナをもっと積極的に活用してほしい」との思いを強くされたそ

「勝山にたくさんの方々が集うシンボリックなものをつくりたい」との思いが詰まったジオアリーナ。「ランニングやウォーキング、ヨガ、ダンスもできる身近な健康づくりの場所や文化的なイベントや発表の場としても利用してほしい」とジオアリーナには様々な目的を持った多くの人が集います。



表彰式の様子

勝山高校 コラム

「ひびきは空に」〜まこと真・誠・信〜

新任のごあいさつ

4月7日に令和3年度の入学式を挙行し、新しく115人の新入生を迎えました。

新型コロナウイルス感染症という不安材料はありますが、始業式では、自ら進んでいろいろなことに挑戦する1年にしてほしいという話をさせていただきました。

今年度も生徒の皆さんの成長を支援し、「地域の学校」として、市民の皆さま方により一層信頼され、期待に応えることができるよう、教職員とともに頑張つて参ります。

引き続き、本校の教育活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

校長 北出 奈美



進路だより

令和2年度卒業生の進路状況
国公立大学

- (名古屋大、筑波大、金沢大、名古屋市立大、大阪府立大、信州大、新潟大、大阪教育大、長岡造形大、愛知教育大、上越教育大 各1人、福井大5人、福井県立大10人、他に過年度生3人(福井大、新潟大、福井県立大)

私立大学

- (明治大、法政大、東京理科大、同志社大、関西学院大、関西大、京都産業大、龍谷大、大谷大、福井工業大、福井医療大、仁愛大、金沢工業大、金沢学院大、名城大、中京大、愛知学院大、岡山理科大 など)

短期大学

- (仁愛女子短大、大垣女子短大)

専門・各種学校

- (福井県立看護、福井市医師会看護、武生看護、大原情報1+1クリエイター、大原簿記法律など)

民間就職

- (株)ニットク、大北久保建設(株) その他



勝高HP

「大地の活動と石材」 ジオパークまちづくり課 主査(学芸員) 町 澄秋

どうして勝山では、恐竜化石がたくさん見つかるの？

勝山ではこれまでに新種の恐竜5種を含むたくさんの恐竜や恐竜時代の動植物の化石が見つかっています。恐竜化石が見つかるために絶対的に重要なのが恐竜時代(中生代)の地層があることです。勝山の場合は、それに相当する約1億2000万年前の手取層群と呼ばれる地層があります。

大陸の一部だった日本列島と手取層群

勝山の手取層群は、現在の勝山市で積み重なった地層ではありません。当時日本列島は大陸の一部でそこを流れていた川が運んできた泥や砂、石がたまつてできた地層です。約2000万年前から1200万年前にかけて、この大陸の一部が裂けることによって、恐竜化石の眠る地層が、現在の日本列島まで運ばれてきました。

石材からみる大地の活動

大地が裂ける際には大規模な火山活動が起こりました。このときに噴出した火山灰や溶岩が固まつた地層を勝山市内でも見ることが出来ます(岩屋川河床、大鷲滝、三室山、下荒井近辺の九頭竜川河

床など)。これらと同じ地層が福井市の足羽山に分布しており、この地層を切り出したのが福井県で有名な笏谷石になります。勝山市内でもかつてカクマ石と栗石と呼ばれる石材が切り出されてきました。カクマ石は、今から100万年ほど前に噴火していた経ヶ岳火山の溶岩が固まつた岩石で、大師山の北麓では、特徴的な板状の割れ目(板状節理)が発達しています。勝山では、かつてこの石は屋根の置き石などに用いられていました。一方、栗石は、先に述べた手取層群の砂岩を切り出したものです。この採石場跡が野向町牛ヶ谷にあ



矢 穴

り、現在でも矢穴(石を切り出すときに掘られた穴)を見ることが出来ます。外国産の安価な石材が多く使われる最近でも、市内では、かつて県内や市内で切り出された石材を使って作られたものを見ることが出来ます。石材から地球の活動に思いをはせることも出来ます。